


2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/25

団体名	NPO法人ホールアース研究所	活動タイトル	発達障がい児向けの自然体験プログラム及び効果測定手法の開発		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■活動風景		
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	障がいのあるなしに関わらず、子ども達一人ひとりの多様性が発揮・尊重され、障がい者は精神的及び身体的な能力を最大限発達させることができるような教育や福祉を受けることができ、自由で民主主義な社会により主体的に参加することを目的に、障がいがある者と障がいのない者が隔てなく共に学ぶことができるインクルーシブな社会状況。		<p>7月15日に実施した『おもいきり川遊び』</p> <p>天子ヶ岳の麓を水源とする稲子川で川遊び。前半は川で生活する生き物を網を使って探しながら上流へ、後半は写真の場所で飛び込んだり泳いだり時間許す限り遊びました。</p> 		
●団体の社会的役割(ミッション)	団体が目指す社会像は、「一人ひとりが『人・自然・地域が共生する暮らし』の実践を通じて、感謝の気持ちと誇りをもって生きている」である。その実現のため、 <ul style="list-style-type: none"> ●誰もが自然・地域の一員であることを自覚し、それぞれの立場で行動している。 ●地域の生物多様性が、維持・回復に向っている。 ●地域で多様な生業が成り立ち、定住・交流人口が増え、文化が価値あるものとして継承されている。 				
●団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい人的資源： <ul style="list-style-type: none"> * 発達障がいに関する専門家3名／指導・助言 * 正規職員2名／プログラムの準備・実施 * アルバイトスタッフ1名／記録及び情報発信 * ボランティアスタッフ5名／当日運営サポート ●望ましい物的資源： <ul style="list-style-type: none"> * バリアフリー型のキャンプ用品30名分 * カヌー&川の自然体験用資材30名分 * 食の体験用30名分の道具一式 * 情報発信可能な記録及び通信機器一式 ●望ましい活動資金： <ul style="list-style-type: none"> * 専門家への謝金及び旅費交通費 * プロパーの準備・運営に関わる人件費及び交通費 ・正規職員2名分（準備及び運営）×回数・アルバイトスタッフ人件費 * アルバイトスタッフ／昼食及び旅費交通費 * プログラムに関わる消耗品費 * PRに関わる印刷製本費、通信運搬費 				
■活動報告		■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)			
<p>●自然体験プログラムの実施</p> <p>日帰りの親子向け自然体験プログラムと1泊2日のお泊りキャンプを実施。出張型のクラフトづくり教室の実施。（静岡福祉大学校内）</p> <p>●発達障がい児に自然体験が及ぼす効果測定。</p> <p>前半：プログラムの中で2種類の効果測定を実施。</p> <p>中盤：上記の測定に加えスマートウォッチを使用し、心拍数と歩数を計測した。</p> <p>後半：紙媒体での効果測定を無くし、ボランティアさんに親子の関わりを通して感じた事や変化を記入して頂いた。</p> <p>●新規プログラムの開発</p> <p>出張型のプログラムの企画&実施。</p> <p>自然体験プログラムにて新企画「木こりになろう！」を企画。(23年11月実施予定)</p> <p>●(活動基盤の強化)サポート団体及びボランティアの獲得</p> <p>前年度作成の報告用冊子と今年度活動予定のチラシを持参し、企業周りの実施。前年度に引き続きボランティア獲得の為、講習会の実施。</p>		<p>●自然体験プログラムの実施</p> <p>①開催：6回実施。（内3回が日帰りプログラム、1回がお泊りキャンプ、2回が出張型のプログラム）（回数は変わらないが、5月のキャンプを7月に変更して実施）</p> <p>②目標アウトカム「プログラムのリピート率を上げるについて」年間リピート率は41%</p> <p>●発達障がい児に自然体験が及ぼす効果測定。</p> <p>①実施：紙媒体での測定を2回と携帯端末を使用した測定を3回合計5回実施。スマートウォッチを使用して心拍数と歩数を約30分毎に測定。活動を通じての親子関係の変化をボランティアさんに書き留めてもらい振り返りで共有、今後の関わり方に繋げる。</p> <p>②目標アウトカム「プログラム後のリラックス感や自己肯定感が高まるについて」定型発達児との比較ではサンプル数が少ないこともあり傾向は見いだせなかった。一方で個別では心理的な効果がある保護者や児童もいた。</p> <p>●新規プログラムの開発</p> <p>①実施：市内の支援学級10校訪問②目標アウトカム「クラス単位でプログラム実施の依頼があるについて」支援級などからの依頼はいただけなかった。</p> <p>●(活動基盤の強化)サポート団体及びボランティアの獲得</p> <p>①講習会の実施：2回開催。</p> <p>②活動資金のサポート団体1社獲得。新規ボランティア：6名獲得。</p>			
■事業を通じて得られたノウハウ		■望ましい社会状況を達成するための課題			
<p>●児童コンピテンス尺度の測定について</p> <p>前年度より低学年の児童にあった仕様（紙媒体や黒から白へグラデーションで変化させ色の濃淡で感覚的に捉えてもらう）に変更して実施を試みてきたが、どうしても児童によって偏りが出てしまい、当活動には向いていないとの判断から廃止。</p> <p>その代替案として、以前からアンケートにも書かれていた「安心して子どもと参加できる」等のコメントから、プログラム中の親子の雰囲気やボランティアさんに書き留めてもらい、振り返りで共有。プログラム後に参加者へその後の児童の様子、親子関係の変化などについて確認のメールを実施している。今後は親子関係にどのような変化をもたらしていくのかを見ていく。</p> <p>●ボランティアについて</p> <p>昨年度に続き、講習会を行った事で人数確保に繋がり、1組に1名のボランティアさんを付けることが可能になり、参加者の細かい様子の確認や参加者側の安心に繋がっている。また、ボランティア層に社会人の方も多く、慣れてきたこともあり、プログラムについて子どもとの関り方について色々意見を下さる方もいて、ただ参加するだけでなく、お互いに良くしていこうという思いがあり良い関係を築けている。</p>		<p>当団体のビジョンとミッションを踏まえ、今年度は「自然体験プログラムの実施」「発達障がい児に自然体験が及ぼす効果測定」「新規プログラムの開発」「(活動基盤の強化)サポート団体及びボランティアの獲得」を実施したが、以下の課題が明らかになった。</p> <p>「自然体験プログラムの実施」では後半の活動で新規が増えたことも要因だが、リピート率が前半よりも下がる結果となった。プログラムの内容も興味を引くものを取り入れていきたい。</p> <p>「発達障がい児に自然体験が及ぼす効果測定」では測定方法を一部変更していることもあり手探り状態が続いている。7月に行った時の測定方法で今後続けていく予定である。「新規プログラムの開発」では、静岡福祉大学で出張型プログラムは実施できたが、支援学級や特別支援学校での活動には行きついていない。今後も引き続きコンタクトを続けていく。</p> <p>「(活動基盤の強化)サポート団体及びボランティアの獲得」ではボランティアの新規獲得数は目標を超えたもののそれ程多くなく、またサポート団体の獲得ではチラシ配布のサポートはしていただけるものの活動資金のサポート団体は1社のみとなった。今後も参加者への負担軽減のため、引き続きコンタクトを続けていく。</p>			
この1年間の活動を通じて			<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> <p>昨年達成できなかったが、活動資金のサポートをいただけた団体1社獲得</p>	<p>を達成しました。</p>	
■受益者の具体的な変化（自由記入）					
<p>川遊びに参加されたご家族について</p> <p>参加前はお父さんと子ども達とに距離があった。お父さん自身もあまりアウトドアをするタイプではなかったのですが今回参加していただきました。お父さんは感想を言葉にする事が苦手なようですが、お母さんから見て「遊び方が分からなかった夫ですが距離が知事待った気がする」とコメントをいただきました。より多くのご家族に体験してほしいと改めて思いました。</p> <p>【以下、奥様からのコメント】</p> <p>「子ども達は自然と触れ合う事でストレスを発散できた、娘は川を歩いた事がなかったので、転びそうになりながらもバランスをとることが出来るようになった。両親は怒る事が少し減った」</p>					